



フォルトゥナ通信

➡ FORTUNA AKTUELL - Japanese Version

日米ハーフ

金城ジャスティン俊樹

新加入決定!!

➡ NEUZUGANG JUSTIN TOSHIKI KINJO



YOKOHAMA



横浜ゴム株式会社 月に一度は空気圧の点検を

YOKOHAMA – a strong brand with powerful tyres

Your YOKOHAMA tyre partner in Düsseldorf:

Winkler, Fries GmbH

Contact partner: Dimitri Nachtigall

Flingerbroich 10 • 40235 Düsseldorf

Telephone: 0211-61016458

107ZL



www.yokohama.de



YOKOHAMA –
Official Football Sponsor



親愛なる日本人社会の皆さまへ

Liebe japanische Gemeinde, liebe japanische Kinder,

キッズクラブ主任 ニーナ・ヘアティヒ

Nina Härtig, Leitung Fortuna Kids Club

フォルトゥナキッズクラブは、我々の小さなクラブ会員たちのために、様々な抽選やアウェーツアー、そのほか定期的に様々なアクションを提供しています。その中でも特筆すべきはフォルトゥナのホーム試合時のエスコートキッズが出来ることです。子供たちは試合当日の2時間前からESPRITアリーナのスタジアム見学に参加し、試合前の選手たちと触れ合うことが出来ます。そしてキックオフに向かう選手たちをピッチまで送り届ける大役を担うことになります。我々のキッズクラブ会員の中には日本人の子供たちもおり、彼らもまた、この特別な任務をやり遂げてくれています。

それ以外にもキッズクラブ会員だけが参加出来るイベントとして、選手と共にクッキーを焼いた

り、湖でヨットを楽しんだり、クリスマスツリーの飾りつけに取り組んだり、様々なことを企画しています。また昨年4月にはデュッセルドルフ日本クラブの協力をいただき、日本人とドイツ人の子供たちを集めて、折り紙と習字の体験イベントを行いました。日本人の子供たちがドイツ人の子供たちに見本を見せてくれたりサポートしてくれたことで、ドイツ人の子供たちも自分の名前を書くことが出来るなど、非常に楽しい日となりました。こういったイベントにはトップチームの選手が参加してくれるのですが、子供たちにとっては掛け替えのない時間になることは間違いありません。

デュッセルドルフの日本人社会は、この街にとって、そして我々フォルトゥナにとって、すでに掛け



替えのない存在です。そんな我が街のクラブ・フォルトゥナに、より多くの日本人キッズ会員が増えてくれること楽しみにしています。

Impressum



Herausgeber 発行元:
Fortuna Düsseldorf 1895 e.V.
Flinger Broich 87
40235 Düsseldorf

Leitung 情報管理:
Kai Niemann (medien@f95.de)

Chefredaktion 編集長:
Gengo Seta (japandesk@f95.de)

Fotos 写真:
Christof Wolff

Layout レイアウト:
Christian Lewandowski
(www.derlewan.de)

Druck 印刷:
Clasen GmbH



マルコ・クルツ氏が新監督に就任。

Marco Kurz neuer Cheftrainer

フォルトゥナは2016年を新しい指揮官と共にスタートさせた。成績不振を理由に解任となったフランク・クラマー前監督の後任に決定したマルコ・クルツ新監督は、就任記者会見でシーズン残り15試合に向けての抱負などを述べている。

クルツ氏は選手としてブンデスリーガでVfBシュツットガルト、1.FCニュルンベルク、ボルシア・ドルトムント、シャルケ04、1860ミュンヘンで合計15年間プレーし、300試合に出場した経験を持つ。ドルトムントに所属していた1995年にはドイツ優勝をしているほか、1997年にはシャルケ04でUEFAカップ制覇も果たしている。選手としてのキャリアを終えた後は、2005年にSCプフレンドルフで指導者としての道を歩み始めると、翌年には監督として1860ミュンヘンU23チームを、その後の2年



間はトップチームも率いている。そして2009年には1.FCカイザースラウテルンの監督に就任し、当時2部のチームを1年で1部昇格に導いただけでなく、昇格年1年目はチームを1部7位でフィニッシュさせている。その後も1899ホッフェンハイム、FCインゴルシュタットでそれぞれ指揮官を務め、2013年9月からは無所属の状態となっていた。

2016年01月07日に開かれた就任記者会見でクルツ新監督は、2年間監督業を休養していた理由について、「自分の指導者としての能力を高めるために、これまでのフィードバックを行ったり、ドイツ国内外の試合を見て歩き、多くの指導者らと意見交換などをするなど、新たな挑戦に向けて準備を進めてきた」と説明。そしてフォルトゥナからの監督としてのオファー

を引き受けた経緯については、「現場に復帰する最適なタイミングを待っていた。この話をもらったとき、自分にとってもその時が来たと思ったので、悩むことなくこの任務に就くことを決断した」とその背景を語った。チームに関しては、「ブンデスリーガ2部はどのチームも非常に力が拮抗している。しかし我々にはその中を勝ち抜く力が十分にあると確信している。ただし、今季の不調をしっかりと分析し、選手たちにも問題点を理解させた上で改善していき、そして選手たちがピッチでベストパフォーマンスを見せられるように準備して戦っていきたい。今季はまずはリーグ残留をしっかりと決めたい」と明確な思いを強調した。情熱的で経験豊富なクルツ監督が、フォルトゥナの後半戦を熱いものにしてくれるに違いない。

ジュルジッチ、マヴリアス、金城が新加入！

Djurdjic, Mavrias und Kinjo sind Winter-Neuzugänge!



この冬フォルトゥナは、2015/16シーズンの後半戦15試合に向けて、3人の選手を獲得した。FCアウグスブルクからニコラ・ジュルジッチが、またFCサンダーランドからはハラランポス・マヴリアスがそれぞれレンタル移籍で加入。また、TSV1860ミュンヘンU19でプレーしていた金城ジャスティン俊樹は、2年半のプロ契約を結んだ。

レンタル加入となるセルビア人FWのジュルジッチ(29歳)は、昨年はスウェーデンの名門クラブであるマルメFFで半年間プレーし、パリ・サンジェルマンやレアル・マドリードを相手にチャンピオンズリーグを戦っていた。ドイツでもグロイター・フルトやFCアウグスブルクでのプレーからその能力の高さを証明しているストライカーが、フォルトゥナの得点不足解消に名乗りを上げる。

またイングランド1部プレミアリーグのFCサンダーランドから移籍を果たしたマヴリアス(21歳)は、ギリシャを代表する若手のホープ。18歳でA代表デビューを果たしているサイドアタッカーも半年間のレンタル加入だが、買い取りオプションが付いており、フォルトゥナの将来を担う可能性大だ。

そして18歳の金城は、昨年1年間はTSV1860ミュンヘンのU19/U21チームでプレーしていたが、

多くのオファーの中から、プロサッカー選手としての第一歩をデュッセルドルフで踏むことを決断し、2年半の契約にサインした。クルツ監督も“大きな可能性を秘めたタレント”と太鼓判を押す若き侍が、フォルトゥナでの飛躍に挑戦することになる。





トルコキャンプ

Trainingslager in der Türkei

2015/16シーズンの後半戦に向けて、マルコ・クルツ監督率いるフォルトウナは、トルコのベレックで集中的なトレーニングキャンプを実施した。新指揮官の鋭い目が光る中、長期離脱から復帰したクリスチャン・ガートナーやクリストファー・アヴェヴォアからも全力でアピール。3試合のテストマッチは1勝2敗という結果になったが、その中で短所と長所が浮き彫りになるなど、収穫の多い8日間となった。

つかの間のウィンターブレイクから再始動したフォルトウナトップチームは、1月18日から多くのサッカークラブが集まるトルコ・ベレックでキャンプインした。フローリアン・クラウスナーアスレティックコーチの指導の下、後半戦15試合を戦い抜くための身体を作るため、ハードな筋トレや、コーディネーショントレーニングで汗を流した選手たちだった

が、ボールを使ったトレーニングでは、クルツ監督とペーター・ヘアマンコーチが、チーム戦術の理解度を高めるための様々なメニューを実施。これまで出場機会の少なかった選手らや、初めてトップチームのキャンプに参加が許されたU19チーム所属の若手選手、長期間怪我のために離脱していた選手たちを含めて、新監督から新たな信頼

とチャンスをつかむために、チーム内でも激しい競争が生まれ、充実した日々が過ぎていった。

そんな中、左サイドDFのファービアン・ホルトハウスは、出場機会を求めてドイツ3部リーグで首位を走るディナモ・ドレスデンヘレントルに移籍することが決まり、一足早くトルコのチームホテルを後にすることとなった。



F95 1-3 Ludogorez Rasgrad

トルコキャンプ最初のテストマッチの相手は、昨季ブルガリアクラブとして初めてチャンピオンズリーグの予選を突破した強豪ルドゴレツ・ラズグラド。4-2-3-1のシステムでキックオフを迎えると、開始早々からイラス・ベブーが続げざまにシュートを放つなど、試合を優位に進めていく。ところが決定力

を欠くフォルトウナに対し、ラズグラドは35分のファーストシュートで先制に成功する。後半はすべての選手を入れかえたクルツ監督だったが、65分、72分にもディフェンス陣の集中を欠いたプレーで追加点を奪われ、3点のビハインドを負ってしまう。終了間際にジョエル・ポーヤンパロが1点を返すも、試合はそのまま1-3でタイムアップ

となり、この試合は敗戦に。指揮官は、「このような試合に負けてはならない。前半の3つの決定機を決められず、後半には自らのミスで失点を繰り返してしまった。良いプレーも見られたので、そういったチャンスをしっかりと活かし、得点を挙げられるようにしていく必要がある。」と改善点を明確にし、次の試合への課題とした。

**F95 0-1 FC St.Gallen**

キャンプ6日に2試合目のテストマッチを迎えたフォルトウナは、スイス1部のFCザンクト・ガレンと対戦。試合は前半26分にルーカス・シュミッツが不用意なバックパスをすると、これを奪われて先制ゴールを奪われてしまう。再び自分たちのミスから失点してしまう悪い癖が出てしまい、前半はそのまま1点ビハインドで折り返すことになったが、後半に入り攻勢に出る。ところがベブーとセルチャン・サラレアが続げ

ざまにシュートチャンスを得るも、どちらも得点に結びつけられない。その後もエマニュエル・イヨハ、カリム・ハグイがそれぞれコーナーキックから決定機を掴むも、相手ゴールマウスを捉えきれない。そしてフォルトウナは、この試合でも最後まで決定力不足を解消できないまま、タイムアップとなってしまった。

F95 1-0 Szeged 2011

FCザンクト・ガレン戦の翌日に行われたハンガリー2部セグド2011と

のテストマッチは、前日に出場しなかった選手が中心のメンバー構成に。強風の中でキックオフを迎えると、まずは19分にマティス・ポリークからのパスを受けたオリバー・フィンクがシュート。これはゴールポスト直撃で得点には至らないも、34分にケビン・アクポグマからフィンク、イヨハと繋げると、最後は中央でマイク・ファンディネンが押し込み、待望の先制点を挙げることに成功する。後半に入ってもアクセル・ベリングハウゼンのコーナーキックからディディエ・ヤ・コナンが、またサラレアもカウンター攻撃から決定的なシュートを放つが、追加点は奪うことが出来ず。それでも試合は1-0でフォルトウナの勝利となった。

試合後にクルツ監督は、「今日はしっかりと戦って勝利することが出来た。得点も奪えだし、失点も許さなかった。このキャンプを無事怪我人などを出すことなく、ポジティブな結果で終わることが出来るということは、チームにはとても大事なことだ。」とキャンプを総括し、デュッセルドルフへの帰路へと着いた。





FORTUNA



- ➡ 最前列、左から右へ: Ihlas Bebou, Adam Bodzek, Joel Pohjanpalo, Christopher Avevor, Marcel Sobottka, Karim Haggui, Kevin Akpog
- ➡ 2列目、左から右へ: Mannschaftsbetreuer Oliver Paashaus, Mannschaftsbetreuer Aleksandar Spengler, Physiotherapeut B
Mannschaftsarzt Dr. Thomas Wiczorek, Mannschaftsarzt Dr. Ulrich Keil, Sportpsychologischer Coach Ax
- ➡ 3列目、左から右へ: Axel Bellinghausen, Sergio da Silva Pinto, Charalampos Mavrias, Christian Gartner, Lukas Schmitz, Michael

DÜSSELDORF

RÜCKRUNDE SAISON 2015/16



Puma, Alexander Madlung, Christian Strohdiek, Emmanuel Iyoha, Oliver Fink, Mathis Bolly, Julian Koch, Kerem Demirbay, Didier Ya Konan, Bernd Restle, Physiotherapeut Thomas Gucek, Physiotherapeut Marcel Verstappen, Chef-Physiotherapeut Carsten Fiedler, Michael Zehle, Torwarttrainer Simon Jentzsch, Athletiktrainer Florian Klausner, Co-Trainer Peter Hermann, Cheftrainer Marco Kurz, Jens Rensing, Tim Wiesner, Lars Unnerstall, Nikola Djurdjic, Sercan Sararer, Justin Toshiki Kinjo, Taylan Duman, Julian Schauerte.



金城ジャスティン俊樹

24 / JUSTIN TOSHIKI KINJO

金城ジャスティン俊樹 Justin Toshiki Kinjo

フォルトウナに誕生した待望の日本人プレーヤー、金城ジャスティン俊樹選手。沖縄出身の18歳MFは、Jリーグを経由せずにブンデスリーガクラブでプロ契約を勝ち取った。そんな“ジャスティン”が、プロ選手としての第一歩を踏み出したその思いを語ってくれた。

まずフォルトウナとプロ契約した感想は？

プロサッカー選手になるという子供のころからの夢が実現したことがとても嬉しいです。

日本のJリーグでプロになるということは考えなかった？

高校1年生くらいからは海外に行きたいと思っていました。当時、3歳上の兄(金城クリストファー達樹、2011/12シーズンにフォルトウナU19でプレー)がドイツに行き、いろんな経験をしている話を聞いていたということが大きいです。メンタル的、人間的に大きく成長出来ると話してくれていました。また僕の所属していたアカデミーも海外遠征などをして、外国のレベルを肌で感じていたこともあります。

その中でもドイツに来たいと思っていた？

近年、多くの日本人が活躍しているということは意識していました。例えばスペインのサッカーは日本人のプレースタイルに似ている部分があります。自分も日本人的なテクニックタイプだと思っていますが、そういう能力がドイツの方が活かせるというイメージは持っていました。

ESPRIITアリーナを見た最初の感想は？

素晴らしいスタジアムだと思いました。プロ契約を結んだので、少しでも早くこの場所でプレーしたいですし、その日が来ることを楽しみにしています。

いくつかのオファーの中でフォルトウナを選んだ決め手は？

クルツ監督の存在が大きいです。直接会ったのは契約の直前が



初めてでしたが、監督自身が僕の練習や試合も直接見てくれ、そして代理人とも何度も電話で話してくれていたと聞いています。それが一番大きな決め手となりました。

フォルトウナについてはどれくらい知っていた？

兄の“クリス”がプレーしていたことはもちろん、3年前まで1部にいたことや、そのときに大前選手がいたことも知っていましたが、それ以外の多くのことに詳しくはわかりませんでした。

オファーをもらってからは？

そのあとに“クリス”からポジティブな話を聞きましたし、いろいろと調べてみた中で伝統がある素晴らしいクラブであることも知りましたし、今後に大きな可能性を感じました。

今まで1860ミュンヘンではU19、U21チームでプレーしてきたわけだけど、フォルトウナに来てプロチームに入って初めてトレーニングした感想は？

やはりフィジカルの違いもありますが、一番はスピードが違いました。みんなパスやトラップなど当たり前の技術は持っている上で、球際に寄せるスピードなどがすごく早いですね。僕はボールを扱う技術には自信を持っているので、少しでも早くそのスピードに慣れていき、パスやボールコントロールの精度をさらに上げていきたいです。中盤での少ないボールタッチで動き直してプレーするような部分は、最初の練習の中でもある程度は出来ると思えたので、もっと自信を持ってボールを要求していけるようになりたいです。そしてやはりポジションがMFなので、もっと走



れるようになる必要性を感じています。

特にチームメイトで印象的だった選手は？

10番のケレム(・デミルバイ)は、ボールの持ち方やパスの出どころ、動き出しのクオリティが高く、すごく参考になりますね。それから“エマ”(エマニュエル・イヨハ)もすごく上手いと思いました。今日の練習の中でのゲームでも得点を決めたりしていていい刺激になりました。でも同年代ですし、負けていられない。良いライバルになっていけばいいですね。

加入初日のチームメイトのリアクションはどうだった？

キャプテンのカリム(・ハグイ)は最初からすごく優しく話しかけてくれました。以前に酒井宏樹選手(ハノーファー所属)、酒井高德選手(HSV所属)と一緒にプレーしている経験があるそうで、知っている日本語を使って話しかけてきてくれて。またアクセル(・ベリングハウゼン)も日本語で、「まいどー、私の名前はアクセルです」と笑顔で話しかけてくれましたね。僕が選手の名前をちゃんと覚えれば、

もっとコミュニケーションは取れるようになるかなとは思っています。

ロッカールームやピッチでは、ドイツ語と英語どちらで話しているのかな？

基本的にはみんなドイツ語で話

しかけてくるので、僕もドイツ語ですね。練習のときも言っていることは大体わかるし、簡単な表現なら自分からも言えます。もちろん監督もドイツ語で話しかけてきます。

すでにドイツに1年いるけど、ドイツ語の理解はどれくらいかな？

今まではミュンヘンの方にいたので、バイリッシュ(バイエルン地方の方言)を聞いていましたが、ドイツ語を教えてもらっていた先生からは標準ドイツ語を習っていたので、こちらに来て逆に聞きやすいなと感じました。カリムともドイツ語で会話しましたが、1年でそれくらい喋れるならすごいいねと言ってもらえて嬉しかったです(笑)。でもまだまだ完璧じゃないですし、もっと出来るようになれば主張も出来るようになるはず。頭の回転も早くなると思うので、もっともっと勉強しなくてはいけませんね。

フォルトウナでの目標は？

少しでも早くプロの環境に慣れて、1日でも早く試合に出たいです。そのために練習から常に全



力でアピールしていきます。プロになった以上、若いとか経験がないとかは関係ないですし、今シーズン中にピッチに立つつもりでやっています。そして4年前のようにフォルトウナが再び1部に上がるための力になりたいです。

個人的な目標としては？

とにかくまずフォルトウナで結果を残すこと。試合に出続けることですね。そうすれば自然に次のステージが見えてくると思いますし、“東京オリンピック”というものも見えてくるかもしれないですから。そしてもっとステップアップをして、日の丸を背負ってプレーする選手になっていきたいです。

デュッセルドルフには大きな日本人社会があって、ジャスティンは待望のフォルトウナ日本人選手になるわけだけど。

僕は日本で生まれ育ちましたし、自分を日本人だと思っています。

す。だから少しでも早く活躍出来るようになって、日本人の皆さんに応援してもらえたら嬉しいです。ドイツ人の方々に認められたいというのももちろんですが、やはり日本人の方々に認めてもらえるようになりたいですね。僕の存在で、日本人もドイツ人もハッピーな気分になってもらえるようになることが理想です。僕の名前入りのユニフォームを着てくれるファンが増えてくれるようになったら、なお嬉しいです。

最後に日本人のファンの方々へメッセージを。

出来るだけ早く試合に出られるように頑張ります。ESPRITアリーナで1人でも多くの日本のファンの方々が見られるようになれば嬉しいので、是非、アリーナへ足を運んでください。そしてもちろん、街中で見かけたら気軽に声を掛けていただければ嬉しいです。応援よろしくお願いします！

Justin Toshiki Kinjo



- 背番号: 24
- 生年月日: 1997年2月22日
- 身長: 182 cm
- 体重: 70 kg
- 国籍: 日本 / アメリカ
- 加入年: 2016年
- 出身地: 沖縄
- 現住地: デュッセルドルフ

offset^{cmyk}

dtp proof schmuckfarben

photoshop fünf+lack FSC illustrator

prepress scannen bogen
falzen kreuzbruch

nuten einfarbig indesign

klimanutral vierfarbig kleben quark
retusche

klammern ctp andruck
zickzackfalz

digitaldruck



Geschäftsführung: Michael Klein & Achim Krause

CLASENI GmbH
ihr printmedienpartner in düsseldorf

2016年最初の試合で好スタートを切れず。

Kein guter Start ins Pflichtspieljahr 2016

フォルトウナは2016年最初の試合となった2月6日、ホームESPRITアリーナに1.FCハイデンハイムを迎えたが、試合は0-1で敗戦となった。多くのチャンスを作るも得点を奪うことが出来ない中、逆にカウンターから1点を献上し、それが決勝点となり、2016年最初の試合で好スタートを切ることは出来なかった。



この日、フォルトウナで初の公式戦を迎えたクルツ監督だったが、同時に冬の新加入選手ニコラス・ジュルジッチとハラランポス・マヴリアスも、ESPRITアリーナでフォルトウナデビューを飾ることとなった。

試合は9分、まずはフォルトウナが好機を得る。相手のファールから得たフリーキックのチャンスに、30mの距離からケレム・デミルバイがロングボールを蹴り込むも、これは相手GKがゴールバーの上に弾き出す。続いては30分を過ぎ、ジュルジッチが25mの距離から狙うも、これは枠を捉えられない。さらに40分には左サイドからデミルバイが折り返したセンタリングに、中央でジョエル・ポーヤンパロがヘディン

グシュート。しかしボールは再び相手ゴールマウスを外れていく。こうして前半はスコアレスのまま、ハーフタイムを迎えることとなった。

後半に入ってもリズムを掴んだのはフォルトウナ。まずはイラス・ベブーがドリブルで持ち上がると、そのままシュート。しかしこれは相手GKにキャッチされる。50分にはフリーキックから、ユリアン・シャウエルテの蹴ったボールをポーヤンパロがかかとで合わせ、こぼれたところをカリム・ハグイが狙うも、これは相手GKが一步早くボールを掴んでしまう。その7分後にはフィンランド人ストライカーがゴールエリア内でパスを受け、強烈なシュートを放つも、これも相手DFがブロック。さ

らに攻勢に出るフォルトウナは、61分にもベブーがミドルシュート。しかしこれも相手ゴールマウスを捉えられない。

すると、試合は優位に進めるも得点は相手チームに生まれるという、今シーズンのフォルトウナの悪いパターンが再び出てしまう。69分、途中投入されたばかりの相手FWが前線でボールを受けてシュートすると、それがそのままゴールに吸い込まれ、相手が先制点を奪うことに成功する。これにすぐに反応したフォルトウナも、70分にはジュルジッチがヘディングで、また71分にはルーカス・シュミッツがミドルシュートで同点ゴールを狙う。さらに81分には、デミルバイからのフリーキックからジュルジッチが強烈なボレーシュートを放つも、これも惜しくも相手ゴールマウスを外れ、相手ゴールネットを揺らすことが出来ない。そしてESPRITアリーナへ駆けつけた、今年のデュッセルドルフカーニバルの皇子皇女ペアも最後まで声援を送ったが、試合はそのままタイムアップを迎え、フォルトウナは2016年最初の試合を落とす結果となってしまった。





Think chemistry. TOYOBO.

Since 1882, TOYOBO has been developing **original** ideas with extraordinary results. Producing a wide range of products by successfully combining **ideas** with **chemistry** in 5 continents, we continue to thrive in various fields through proven know-how, creativity and **authenticity**.

Discover our expertise right here in Europe:

Films & Polymers

- ✓ Packaging Films
- ✓ Industrial Films
- ✓ Functional Resins
- ✓ Engineering Plastics

Industrial Materials

- ✓ Cushioning Material
- ✓ High-performance Fibers
- ✓ Airbag Fabrics
- ✓ Functional Filters

Life Science

- ✓ Modifying Enzymes
- ✓ Diagnostig Reagents
- ✓ Hollow Fiber Membranes
- ✓ Seawater Desalination

Functional Fibers

- ✓ Comfort Evaluation Tech.
- ✓ Heat-generating Textiles
- ✓ Cool Feeling Fabrics
- ✓ Water-absorbing Fibers

未来を生きる子どもに、 どんな世界を贈れるだろう。

私たちの子どもが、そして、その子どもたちがいつまでも、
昨日よりもっといい世界で目覚めることができれば。そんな未来を想像してみませんか。
世界中のいたるところで、豊かな水とクリーンエネルギーがあふれ、
道路は渋滞することなく、誰もが一人ひとりに合った医療を受けられる。
日立は、それをけっして夢ではなく、社会イノベーションでかなえる未来と考えています。
すでに動き出しているのは、電力や水や交通などの異なるインフラをITでつなぐことで、
資源のムダをなくし、社会状況の変化にも柔軟に対応して進化し続けるシステムづくり。
これも、世界をより豊かにするための取り組みの一つです。
私たちが想像できる暮らしは、きっと、実現できるはず。
未来への、かけがえのない贈り物をしたいのです。

それが、日立の社会イノベーション。

social-innovation.hitachi.com

A child is sleeping on a bed in a dimly lit room. A glowing blue world map is projected onto the bed's surface. To the left, a bedside table holds a lamp and some toys. On the floor, there are more toys, including a guitar and blocks.

SOCIAL INNOVATION
**IT'S OUR
FUTURE**